

学校名 羽生市立手子林小学校
所在地 羽生市下手子林555
電話 048-565-1158

1 本校の概要

本校は羽生市の市街地より南東部に位置する学級数 14、児童数 332 名の中規模校である。羽生市では平成 24 年度から学校図書館司書を全校に配置し、学校図書館の整備に努めている。本校では「児童が自然に足をはこぶことができるような図書室の運営」を目指して、実践を重ねている。

2 本校の実践

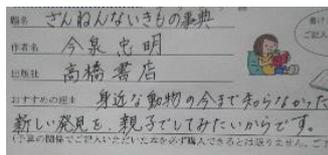
(1) 実践の視点

- ・自主的な読書活動を行うための取組
- ・学校図書館司書の専門性を生かした取組

(2) 実践の概要

ア 図書委員会の児童による選書

図書購入費の一部を活用し、図書委員会の児童による選書を行



保護者からのリクエスト

行った。「みんなが読みたい本」「図書委員としてみんなに読んでもらいたい本」「保護者によるリクエスト」の3つの観点から選書を行った。

イ 読書ビンゴを活用した取組



各学年で「読書ビンゴ」を活用し、その年齢で児童に読ませたい本をワークシートに載せ、良書に触れる機会を設けることで、読書の幅を広げている。

2年生読書DEビンゴ

その際、図書主任と学校図書館司書が連携し、1年間で計画的に幅広い読書ができるように図書を選定している。

(1年間で3枚、合計27冊)

ウ 秋の読書祭り「ぼく・わたしの読書宣言」

10月下旬から11月下旬までの1ヶ月間、「秋の読書祭り～ぼく・わたしの読書宣言」に取り組んだ。初めに、児童集会で図書委員会が読書祭りの取り組み方の説明をし、その後、一人一人がめあてを設定し(例 椋鳩十の本を5冊読む等)、クラスの友達の前でめあてを宣言した。期間中は朝の活動を読書タ

イムに変更したり、土日の宿題に「家読」を出したりするなど、めあて達成に向けて、読書時間の確保を行った。めあてが達成できた児童には記録カードにシールを貼り努力を賞賛した。またクラス全員がめあてを達成できたら、廊下のクラス表示の下に認定証を貼り、成果が分かるような工夫を行った。全校で95%の児童が目標を達成した。



図書委員会による発表



認定証

エ 読書単位における学校図書館司書の活用

各学年の図書に関する国語の単元や並行読書の選定、古典学習の一環として、百人一首を行ったり、読書単位ではビブリオバトルを紹介したりするなど幅広い単元で学校図書館司書が積極的に授業に入り、専門性を生かしている。



5年生ビブリオバトル

オ 6年生児童によるオリジナル絵本の読み聞かせ

6年生が国語の授業で制作した物語を1年生に向けて読み聞かせを行った。制作した物語は1年生の教室に寄贈し、朝の読書タイムの人気図書の1つとなっている。

カ 他校との読書郵便での交流

市内の小学校から本と一緒に送られてきた手紙の返事を書くことで、本の感想を通して交流を図っている。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ア さまざまな分類の本を読む児童が増えた。
- イ 貸出し冊数が増加し、読書量が増えた。

(2) 課題

- ア 季節毎のイベントを充実させることにより読書への意欲を高める。
- イ 学校図書館司書の専門性を生かした取組をさらに充実させる。